

診療報酬・薬価改定経緯一覧 〔昭和編〕 中医協発足～

著作・制作 (株)医薬情報研究所

西暦 (年号)	年 月	事 項	事 項 内 容
1950年(昭和25年)	6月16日	「中央社会保険医療協議会」発足	
	7月	診療報酬点数表改定	ペニシリン注射料改定
	9月	診療報酬改定	入院料に完全看護・給食加算新設
	9月1日	薬価基準制定	薬価調査は物価庁が実施。80%バルクライン方式
		健康保険法規定	「使用薬剤の価格は厚生大臣の定める薬価基準に基づき、都道府県知事が定める」
	10月	薬価基準スタート	
	12月	診療報酬改定	内用薬点数改正
1951年(昭和26年)	1月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載、一部品目の薬価改定
	1月24日	臨時診療報酬調査会答申	医療報酬を「診療報酬」と「調剤報酬」に区分
	4月	診療報酬点数表改定	ペニシリン注射料改定、完全給食加算引き下げ
	5月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載、一部品目の薬価改定
	8月1日	薬価改定【全面】	3地区制を採用
	9月	診療報酬点数表改定	結核指導料引き上げ、薬治料にクロマイ等3種新設
	9月18日	薬価改定告示	[S26.8 薬価改定]
	12月	新診療報酬単価告示	(甲地 12.5 円, 乙地 11.5 円)
1952年(昭和27年)	1月	診療報酬点数表改定	入院料引上げ
	2月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載、一部品目の薬価改定
	4月1日	物価庁廃止	薬価調査 物価庁から経済安定本部へ
	5月1日	薬価改定【全面】	
	5月14日	薬価改定告示	[S27.5 薬価改定]
	8月	診療報酬点数表改定	血圧測定、眼圧測定新設。クロマイ等薬治料引下げ。ペニシリン注射料改定
	8月1日	薬価改定【部分】	8月薬価調査を経済安定本部から厚生省に移管。栄養剤等固定点数廃止による基準新設
	11月	薬価調査	厚生省移管後初調査(小調査)
	11月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載、一部品目の薬価改定
		診療報酬点数表改定	診察料に慢性指導料新設
12月	診療報酬点数表改定		
1953年(昭和28年)	2月	薬価調査	[S28.8 薬価改定] 大調査
	4月1日	収載品目の追加【新薬】	ストレプトマイシン、ペニシリン等
	5月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載、一部品目の薬価改定
	8月1日	薬価改定【全面】	[S28.2 薬価調査] 90%バルクライン方式採用
	8月22日	薬価改定告示	[S28.8 薬価改定]
	10月	薬価調査	[S29.5 薬価改定]
1954年(昭和29年)	1月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載、一部品目の薬価改定
	5月1日	薬価改定【全面】	[S28.10 薬価調査], 3地区制を2地区制に改定。
	5月31日	薬価改定告示	[S29.5 薬価改定]
	7月	診療報酬点数表改定	ペニシリン注射料改定。薬治料に抗生物質約20種を整理し新設
	9月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載、一部品目の薬価改定

西暦 (年号)	年 月	事 項	事 項 内 容
1954年(昭和29年)	10月	薬価調査	[S30.9 薬価改定]
1955年(昭和30年)	1月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載, 一部品目の薬価改定
	2月	診療報酬点数表改定	検査料, レントゲン診断料引き上げ
	9月	診療報酬点数表改定	初診料算定方法変更。指導料適用拡大。検査料引き上げ
	9月1日	薬価改定【全面】	[S29.10 薬価調査]
	9月9日	薬価改定告示	[S30.9 薬価改定]
	12月	薬価調査	[S31.9 薬価改定]
1956年(昭和31年)	2月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載, 一部品目の薬価改定
	4月	診療報酬点数表改定	薬治料と処方せん料を投薬料に整理
	5月1日	収載品目の追加【新薬】	医薬分業に伴う調剤用医薬品の追補収載
	8月17日	薬価改定告示	[S31.9 薬価改定]
	9月1日	薬価改定【全面】	[S30.12 薬価調査]
	11月	薬価調査	
1957年(昭和32年)	4月	『保険医療機関及び保険医療養担当規則』の改正	「保険医は厚生大臣の定める医薬品以外の医薬品を患者に施用し, 又は処方してはならない」(規則第19条)との規定により, 薬価基準は, 保険医療での薬価算定のための「基準価格表」に加え, 保険診療で使用することのできる「品目表」に性格が備わる。
		診療報酬点数表改定	眼科, 耳鼻科で抗生物質加算拡大
	4月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載, 一部品目の薬価改定
	5月	診療報酬点数表改定	初診, 再診の時間外加算新設
	6月27日	診療報酬改定諮問	
	11月	薬価調査	[S33.4 薬価改定]
1958年(昭和33年)	12月12日	中医協答申	
	3月10日	薬価改定告示	[S33.4 薬価改定]
	4月1日	薬価改定【全面】	[S32.11 薬価調査]
	6月30日	診療報酬改定告示	[S33.10 診療報酬改定: 甲・乙点数表]
	10月	薬価調査	[S35.6 薬価改定]
	10月1日	診療報酬改定(新診療報酬体系)	新点数表(医科甲表, 乙表および歯科)を設定(1点単価を10円に固定, 総医療費で平均8.5%引き上げ)。※「使用医薬品の購入価格は別に厚生大臣が定める」(現行の薬価基準制度確立)
薬価改定【全面】		[S33.10] (収載品目4,143品目): 診療報酬点数の改定に伴う形式的改定。知事の裁量が制廃止され, 厚生大臣が定める薬価基準となる	
11月20日	薬価改定告示	[S33.10 薬価改定]	
1959年(昭和34年)	3月1日	薬価改定【全面】	(収載品目数4,124品目) 薬価1%引き下げ。甲地・乙地の価格差廃止
	10月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載, 一部品目の薬価改定
1960年(昭和35年)	5月14日	薬価改定告示	[S35.6 薬価改定]
	6月1日	薬価改定【全面】	[S33.10 薬価調査] (収載品目4,002品目) 薬価1%引き下げ。大衆薬を健康保険から削除

西暦 (年号)	年 月	事 項	事 項 内 容
1961年(昭和36年)	1月1日	収載品目の追加【新薬】	治療指針改正に伴う収載品目追加 (抗結核剤カナマイシン) (256品目)
	4月	国民皆保険体制確立	
	6月27日	診療報酬改定諮問	
	7月1日	診療報酬改定	総医療費で平均12.5%引き上げ (病院15%, 診療所11%)。 入院料, 基準看護加算, 往診料引き上げ
	7月7日	中医協答申	(7月1日に遡り実施)
	7月8日	診療報酬改定告示	[S36.9 診療報酬改定]
	9月18日	診療報酬改定諮問	
	10月6日	中医協答申	
	11月1日	収載品目の追加【新薬】	治療指針改正に伴う収載品目追加 (63品目)
	11月18日	診療報酬改定告示	[S36.12 診療報酬改定]
		薬価改定告示	[S36.12 薬価改定]
	12月1日	薬価改定【部分】	追補収載, 一部品目の薬価改定
診療報酬改定		(緊急是正) 総医療費で平均2.3%引き上げ (病院15%, 診療所11%)。処方せん料新設	
1962年(昭和37年)	8月	薬価調査	[S38.4 薬価改定 (部分改定)]
	10月1日	薬価改定【部分】	使用基準の改正に伴う品目の追加 (84品目)
1963年(昭和38年)	1月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載, 一部品目の薬価改定
	4月1日	薬価改定【部分】	内用薬の注の規定を設け, 配分剤の各有効成分が単味の末, 散, 顆粒で収載されているものは使用可能に (42品目)
	5月1日	治療方針の改正に伴う収載品目の追補収載	治療指針の改正に伴う品目の追加 (エチオナミド)。カナマイシン等→エチオナミド錠・坐薬
	6月6日	新中医協発足	
	6月7日	中医協	結核治療指針の改正答申 (5月1日遡及実施)
	7月	薬価調査	[S40.11 薬価改定]
	8月12日	診療報酬改定諮問	
	8月26日	中医協答申	
	8月28日	診療報酬改定告示	[S38.9 診療報酬改定]
	9月1日	診療報酬改定	総医療費で平均3.7%引き上げ。甲地, 乙地の地域差撤廃
	9月21日	薬価改定告示	
	10月1日	薬価改定【部分】	抗結核薬の薬価の改正 (カナマイシン, ストレプトマイシン, サイクロセリン, イソニアジド, パスの薬価引き下げ) (13品目)
	12月22日	診療報酬改定諮問	
1964年(昭和39年)	4月18日	中医協答申	診療報酬改定見送り
	12月22日	新診療報酬改定諮問	診療側と支払い側が対立
1965年(昭和40年)	1月1日	診療報酬改定	(緊急是正) 総医療費で平均9.5%引き上げ (医科9.5% : 病院9.96%・診療所9.09%, 歯科9.4%, 調剤内訳発表なし)。初診料, 入院時基本料引き上げ
	1月9日	中医協会長の報告書で意見具申	(1月1日遡及実施)
		診療報酬改定告示	[S40.1 診療報酬改定] (厚相・職権告示)

西暦(年号)	年月	事項	事項内容
1965年(昭和40年)	8月14日	診療報酬改定諮問	薬価4.5%引き下げのうち、3%分の配分を諮問
	10月2日	中医協答申	(S38年12月22日諮問分)
	10月5日	診療報酬改定告示	[S40.10 診療報酬改定]
		薬価改定告示	[S41.11 薬価改定] (1963年7月の薬価調査結果を補正して引き下げ)
11月1日	薬価改定【全面】	[S38.7 薬価調査] (5,423品目) 薬剤費ベース約11% (総医療費ベース4.5%：うち3%を医師の技術料に振り替え) 引き下げ	
	診療報酬改定	診療報酬平均3.0%引き上げ。深夜加算、乳幼児加算など引き上げ	
1966年(昭和41年)	4月1日	薬価改定【部分】	内用薬の注を削除 (S38.4改定参照)、注関係の既製剤名を明示して収載 (232品目)
1967年(昭和42年)	1月1日	収載品目の追加【新薬】	結核新薬の追加収載 (エタンブトール, カプレオマイシン) (2品目)
	3月	薬価調査	[S42.10 薬価改定] (販売サイドのみ調査 (日医の了解なく薬価引き下げ))
	7月1日	薬価改定【部分】	追補収載、一部品目の薬価改定
		収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤 (ピマフシン) 等 (11品目)
	9月10日	中医協建議	「薬価調査は年に1回実施すべき」「医療経済実態調査は3年に1回実施すべき」
	9月12日	薬価改定告示	[S42.10 薬価改定]
	10月1日	薬価改定【全面】	[S42.3 薬価調査] (6,831品目) 薬剤費ベース10.2%引き下げ (医療費ベース4.1%)。統一限定列記方式採用
	10月30日	診療報酬改定諮問	
	11月	第1回医療経済実態調査	
	11月6日	中医協答申	
	11月17日	診療報酬改定告示	[S42.12 診療報酬改定]
12月1日	診療報酬改定	医科7.68%、歯科12.65%引き上げ (調剤公表なし)。初・再診料引き上げと内科加算新設	
1968年(昭和43年)	3月	薬価調査	[S44.1 薬価改定]
	3月1日	収載品目の追加【新薬】	制癌剤 (5-FU注) 等 (25品目)
	5月1日	収載品目の追加【新薬】	制癌剤 (オンコビン, メソトレキセート) (2品目)
	6月1日	収載品目の追加【新薬】	追補収載、一部品目の薬価改定
	11月30日	薬価改定告示	[S44.1 薬価改定]
1969年(昭和44年)	1月1日	薬価改定【全面】	[S43.3 薬価調査] (6,874品目)。薬剤費ベース平均5.6% (医療費ベース2.4%) 引き下げ
		収載品目の追加【新薬】	結核剤 (プロチオナミド) 等 (17品目)
	7月1日	収載品目の追加【新薬】	
	11月	薬価調査	[S45.8 薬価改定]
1970年(昭和45年)	1月12日	診療報酬改定告示	[S45.2 診療報酬改定]
	1月13日	中医協建議	診療報酬引き上げ求める
		診療報酬改定諮問	

西暦(年号)	年月	事項	事項内容
1970年(昭和45年)	1月13日	中医協答申	
	2月1日	診療報酬改定	(緊急是正) 医科 8.77%, 歯科 9.73%引き上げ。初診時基本診療料, 再診時基本診療料引き上げ
	4月25日	第1回医療経済実態調査結果公表	(1967年11月実施分)
	6月1日	収載品目の追加【新薬】	制癌剤(プレオマイシン), 抗生物質製剤(ゲンタマイシン)等(44品目)
	7月1日	診療報酬改定	医科 0.97%引き上げ。再診料引き上げ
		薬価改定告示	[S45.8 薬価改定]
	8月1日	薬価改定【全面】	[S44.11 薬価調査](7,176品目)薬剤費ベース 3.0%(医療費ベース 1.3%) 引き下げ
収載品目の追加【新薬】		抗生物質製剤(セファレキシン)等全面改定に含む(10品目)	
11月	第2回医療経済実態調査	結果未公表	
1971年(昭和46年)	3月	薬価調査	[S47.2 薬価改定]
	9月1日	収載品目の追加【新薬】	リファンピシンなどの治療指針関連品目の収載(7品目)
1972年(昭和47年)	1月22日	中医協建議	「薬価基準の引き下げによって生じる余裕は技術料を中心に上積みする」
		診療報酬改定諮問	
		中医協答申	
	1月31日	診療報酬改定告示	[S47.2 診療報酬改定]
		薬価改定告示	[S47.2 薬価改定]
	2月1日	薬価改定【全面】	[S46.3 薬価調査](7,236品目)薬剤費ベース 3.9%(医療費ベース 1.7%:1.7%を技術料に振り替え) 引き下げ
		収載品目の追加【新薬】	精神神経用剤(メダゼパム)等(46品目)
診療報酬改定		(医科 13.70%, 歯科 13.70%, 調剤 6.54%引き上げ)。内科再診料, 処置料引き上げ	
9月	薬価調査	[S49.2 薬価改定]	
11月1日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤(スルベニシリン)等(51品目)	
1973年(昭和48年)	12月7日	診療報酬改定諮問	建議方式から諮問方式へ
	12月31日	中医協答申	
1974年(昭和49年)	1月21日	診療報酬改定告示	[S49.2 診療報酬改定]
		薬価改定告示	[S49.2 薬価改定]
	2月1日	薬価改定【全面】	[S47.9 薬価調査](7,119品目)薬剤費ベース 3.4%(医療費ベース 1.5%, 1.5%を技術料に振り替え) 引き下げ。(抗生物質製剤等の再評価による削除含む)
		収載品目の追加【新薬】	制癌剤(フトラフル)等(66品目)
		診療報酬改定	(医科 19.0%, 歯科 19.9%, 調剤 8.5%引き上げ)。入院時医学管理料, 看護料引き上げ
	3月1日	収載品目の追加【後発品】	
	5月	薬価調査	[S50.1 薬価改定]
	9月7日	診療報酬改定諮問	
9月18日	中医協答申		
9月26日	診療報酬改定告示	[S49.10 診療報酬改定]	

西暦(年号)	年月	事項	事項内容
1974年(昭和49年)	10月1日	診療報酬改定	(医科16.0%, 歯科16.2%, 調剤6.6%引き上げ)。再診料, 往診料, 処方せん料引き上げ
	12月10日	薬価改定告示	[S50.1 薬価改定]
1975年(昭和50年)	1月1日	薬価改定【全面】	[S49.5 薬価調査](6,891品目)薬剤費ベース1.55%(医療費ベース0.4%)引き下げ
		収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤(アモキシシリン)等(32品目)
	9月22日	収載品目の追加【新薬】	制癌剤(ピシバニール), 結核剤(エンビオマイシン)等(51品目)
1976年(昭和51年)	2月10日	中医協全員懇	銘柄別収載の実施を決定
	3月17日	診療報酬改定諮問	
	3月23日	中医協答申	
	3月27日	診療報酬改定告示	[S51.4 診療報酬改定]
	4月1日	診療報酬改定	(医科9.0%, 調剤4.9%引き上げ)(薬価改定財源なし, 一般財源のみ)。初診料, 時間外加算, 注射料等引き上げ
	5月	薬価調査	[S53.2 薬価改定]
		第3回医療経済実態調査	
	6月10日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤(カルベニシリンインダニルナトリウム)等(33品目)
	7月28日	中医協答申	(歯科診療報酬:3月17日諮問)
	7月31日	歯科診療報酬改定告示	
8月1日	歯科診療報酬改定	歯科9.6%引き上げ	
1977年(昭和52年)	5月1日	収載品目の追加【新薬】	制癌剤(クレスチン)等(47品目)
	8月2日	収載品目の追加《緊急収載》	小人症治療薬
	11月1日	薬価改定告示	[S53.2 薬価改定](銘柄別収載方式)
1978年(昭和53年)	1月9日	診療報酬改定諮問	
	1月17日	中医協答申	
	1月28日	診療報酬改定告示	[S53.2 診療報酬改定]
	2月1日	薬価改定【全面】	[S51.5 薬価調査](13,635品目)薬剤費ベース5.8%(医療費ベース2.0%)引き下げ。銘柄別薬価収載方式を適用
		診療報酬改定	診療報酬平均11.6%(医科11.5%, 歯科12.7%, 調剤5.6%)引き上げ。診察料, 入院料, 検査料など引き上げ
	3月10日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤(セフラジン)等(84品目)
7月	薬価調査	[S56.6 薬価改定]	
1979年(昭和54年)	4月19日	収載品目の追加【新薬】	精神神経用剤(スルピリド)等(91品目)
	9月27日	収載品目の追加《緊急収載》	慢性動脈閉塞症用剤(アルプロスタジル注)(1品目)
1980年(昭和55年)	2月1日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤(ピペラシリンナトリウム注)等(90品目)
	4月17日	第3回医療経済実態調査結果公表	(1976年5月実施分)
	12月25日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤(塩酸セフォチアム注)等(105品目)
1981年(昭和56年)	4月16日	中医協に診療報酬改定を包括諮問	

西暦 (年号)	年 月	事 項	事 項 内 容
1981年(昭和56年)	5月9日	薬価改定告示	[S56.6 薬価改定]
	5月21日	診療報酬改定諮問	
	5月23日	中医協答申	
	5月29日	診療報酬改定告示	[S56.6 診療報酬改定]
	6月1日	薬価改定【全面】	[S53.7 薬価調査] (12,881品目) 薬剤費ベース18.6% (医療費ベース6.1%) 引き下げ。医療材料0.5%引き下げ
		診療報酬改定	診療報酬平均8.1% (医科8.4%, 歯科5.9%, 調剤3.8%) 引き上げ。技術料重視の診療報酬体系確立
	9月1日	収載品目の追加【後発品】	
		収載品目の追加【新薬】	抗癌剤 (塩酸アクラルピシン) 等 (74品目)
10月	第4回医療経済実態調査		
11月28日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤 (ラタモキセフナトリウム) 等 (85品目)	
1982年(昭和57年)	1月	薬価調査	[S58.1 薬価改定 (部分改定)]
	8月12日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤 (塩酸バンコマイシン注) 等 (33品目)
	9月1日	収載品目の追加【後発品】	
	9月18日	中医協「薬価算定の在り方」答申	「薬価調査を厳正に行う, 81%バルクラインの適用, 改正は毎年1回行い, 薬価基準の全体の見直し (全面改定) は少なくとも3年に1回行う」
	12月13日	薬価改定告示	[S58.1 薬価改定 (部分改定)]
	12月29日	診療報酬改定諮問	
中医協答申		老人診療報酬新設	
1983年(昭和58年)	1月1日	薬価改定【部分】	[S57.1 薬価調査] 1982年9月18日の答申に基づく薬価基準の一部改定 (16,100品目 (3076品目)。薬剤費ベース4.9% (医療費ベース1.5%) 引き下げ。※90%バルクライン方式から81%バルクライン方式へ
	1月20日	診療報酬改定告示	[S58.2 診療報酬改定]
	2月1日	診療報酬改定	老人診療報酬点数表創設に伴う一般の診療報酬微調整 (平均0.3%引き上げ): 老人診療報酬は±0・財政中立)
	2月3日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤 (ダラシンP注) 等 (61品目)
	5月	薬価調査	[S59.3 薬価改定]
	6月	第4回医療経済実態調査結果公表	(1981年10月実施分)
1984年(昭和59年)	1月24日	診療報酬改定諮問	
		中医協答申	
	2月10日	薬価改定告示	[S59.3 薬価改定]
	2月13日	診療報酬改定告示	[S59.3 診療報酬改定]
	3月1日	薬価改定【全面】	[S58.5 薬価調査] (13,471品目) 薬剤費ベース16.6% (医療費ベース5.1%) 引き下げ
		診療報酬改定	診療報酬平均2.8% (医科3.0%, 歯科1.1%, 調剤1.0%) 引き上げ (老人診療報酬含む)。救命救急入院料, 自己腹膜灌流指導管理料新設
	3月17日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤 (セフォテタン注) 等 (104品目)
5月30日	収載品目の追加【新薬】	酵素製剤 (アボキナーゼ注) 等 (7品目)	

西暦 (年号)	年 月	事 項	事 項 内 容
1984年(昭和59年)	6月2日	収載品目の追加【後発品】	
	11月	第5回医療経済実態調査	
		薬価調査	[S60.3 薬価改定(部分改定)]
	11月22日	収載品目の追加【新薬】	呼吸促進剤(塩酸ナロキソン注)等(30品目)
1985年(昭和60年)	1月29日	診療報酬改定諮問	
	1月31日	中医協答申	
	2月16日	薬価改定告示	[S60.3 薬価改定(部分改定)]
	2月18日	診療報酬改定告示	[S60.3 診療報酬改定]
	3月1日	診療報酬改定	診療報酬平均3.3%(医科3.5%, 歯科2.5%, 調剤0.2%)引き上げ。診療情報提供料新設
		薬価改定【部分】	[59.11 薬価調査](14,946品目(5,385品目))中医協の意見により大型寡占品目についても改正実施。薬剤費ベース6.0%(医療費ベース1.9%)引き下げ。医療材料0.2%引き下げ
		収載品目の追加《緊急収載》	ヒト成長ホルモン(グロウルム)の緊急収載
	7月19日	収載品目の追加【新薬】	高脂血症剤(コレステラミン)等(5品目)
	7月29日	収載品目の追加【新薬】	その他の生物学的製剤(フェロン)等, 効能効果の変更に伴う薬価の変更(60.11.1 施行)(73品目)
	11月	薬価調査	[S61.4 薬価改定(部分改定)]
12月10日	収載品目の追加【新薬】	ビタミンA及びD剤(チガソン)等(2品目)	
12月17日	収載品目の追加【新薬】	その他のホルモン剤(ヒューマリン)等, 効能・効果の変更に伴う薬価の変更(61.4.1 施行)(82品目)	
1986年(昭和61年)	2月25日	診療報酬改定諮問	
	2月28日	中医協答申	
	3月14日	薬価改定告示	[S61.4 薬価改定(部分改定)]
	3月15日	診療報酬改定告示	[S61.4 診療報酬改定]
	3月17日	収載品目の追加《緊急収載》	脳下垂体ホルモン剤(ソマトノルム)(1品目)
	4月1日	診療報酬改定	診療報酬平均2.3%(医科2.5%, 歯科1.5%, 調剤0.3%)引き上げ。紹介外来病院加算新設
		薬価改定【部分】	[S60.11 薬価調査](15,166品目(6,587品目))薬剤費ベース5.1%(医療費ベース1.5%)引き下げ。医療材料0.1%引き下げ
		収載品目の追加《緊急収載》	血液製剤
	6月19日	収載品目の追加【新薬】	慢性関節リウマチ用剤(リドーラ)等(45品目)
	7月21日	第5回医療経済実態調査結果公表	(1984年11月実施分)
8月25日	収載品目の追加【新薬】	消化性潰瘍用剤(ケルナック)等	
11月21日	収載品目の追加【新薬】	その他の中枢神経用剤(アバン)等, 効能効果拡大に伴う薬価の変更(62.3.1 施行)(17品目)	
1987年(昭和62年)	3月12日	収載品目の追加【新薬】	その他の生物学的製剤(スミフェロン)等(17品目)

西暦 (年号)	年 月	事 項	事 項 内 容
1987年(昭和62年)	5月25日	中医協建議	「薬価算定方式の在り方に関して、バルクライン方式を堅持しつつ一部加重平均値の要素を加味した修正を行うこと、部分改正を廃止し、2年に1回程度の全面改正を行うことなど」
	5月28日	収載品目の追加【新薬】	その他の中枢神経用剤（グラマリール）等（25品目）
	7月	薬価調査	〔S63.4 薬価改定〕他計調査に自計調査追加
	8月28日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤（セフィキシム、セフテラムピボキシル）等（50品目）
	10月1日	収載品目の追加【後発品】	
	10月19日	収載品目の追加（緊急）	エイズ治療薬（レトロビルカプセル）等（3品目）
	11月	第6回医療経済実態調査	
	11月25日	収載品目の追加【新薬】	組換え型インターフェロン（ $\alpha-2a$ ）等（40品目）
1988年(昭和63年)	2月25日	診療報酬改定諮問	
	2月29日	中医協答申	
	3月14日	薬価改定告示	〔S63.4 薬価改定〕
	3月19日	診療報酬改定告示	〔S63.3 診療報酬改定〕
	4月1日	薬価改定【全面】	〔S62.7 薬価調査〕（13,636品目）薬剤費ベース10.2%（医療費ベース2.9%）引き下げ。※1982年9月18日の中医協答申、1987年5月25日の中医協建議に基づき、価格のバラツキの大きい品目は81%バルクライン方式、価格のバラツキの小さい品目は90%バルクライン方式で算定。一部加重平均値を指標として修正（修正バルクライン方式）。
		診療報酬改定	診療報酬平均3.4%（医科3.8%、調剤1.7%）引き上げ。長期入院の是正、在宅医療の推進
	4月18日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤（セフロキシムアキセチル）等（28品目）
	5月17日	歯科診療報酬改定諮問	
		中医協答申	〔1988年6月 歯科診療報酬改定〕
	5月27日	収載品目の追加【新薬】	抗生物質製剤（塩酸ピラルビシン、フロモキシセフナトリウム）等（48品目）
	5月30日	歯科診療報酬改定告示	
	6月1日	歯科診療報酬改定	歯科1.0%引き上げ
	7月15日	収載品目の追加【後発品】	
	8月22日	収載品目の追加【新薬】	血圧降下剤（ペルジピンLA）等（16品目）
	8月29日	収載品目の追加【新薬】	混合ビタミン剤（オーツカMV注）等（5品目）
	11月16日	収載品目の追加【新薬】	アヘンアルカロイド系製剤（MSコンチン錠）等（27品目）
11月	中医協	医療経済実施調査を3年ごとから2年に1回実施決定	
11月21日	第6回医療経済実態調査結果公表	（1987年11月実施分）	